



国立国会図書館 島廻浪間朝比奈 7編28巻 208-733



ガラス使用





書肆紅英堂或曰余が草廬と來訪故人曲亭翁が遍述せる朝夷巡島
 記と國字文小綴れよと乞予諾以原本文化甲戌歳の刊行嶋巡り号虚
 か其書海外小走り高評ハ四隅に鳴柳隻々諸書不涉る彼義未だ
 諸嶋は渡るが如く羊々數部れ長譚ハ長脚島の行膝物ハ列用
 數本小字は至る長臂嶋の棚搜も及ま或者官詞編と云形景
 小南風待に之異と鳥呼自擬嶋の開闢以來未曾有れ大空の著作
 小人嶋の僕如き拙羊に譯交ハ徑廷所為あらず書房の需め固辭
 難くて此嶋巡の儀楫上艦權上帆上占とと壁と筆硯紙墨文房具も
 揃ふ書卓元船既ふ鉄猫と引揚と福壽海の大洋瀟出黄金と積ま
 幾客の庫に湊入とせし事と欲る而已
 嘉永辛亥献歳
 柳下亭種員識





英聲懷絶域
 勇敢鎮窮邊
 ひくやうきとみ
 たのめある
 山乃
 以乃とれ
 阿さき
 あらめん
 著作堂

和
 田
 の
 良
 等
 腰
 越
 六
 郎

義
 盛
 の
 室
 鞆
 繪
 御
 再

和
 田
 義
 盛
 三
 男
 阿
 三
 九
 朝
 夷
 三
 郎
 平
 義
 秀

安
 房
 大
 猪
 浅
 江
 の
 農
 民
 豊
 六
 兼
 手
 夫
 也





阿三丸
後巴尾と法号也

雛子乃
聲

隠
こゝろ

素園

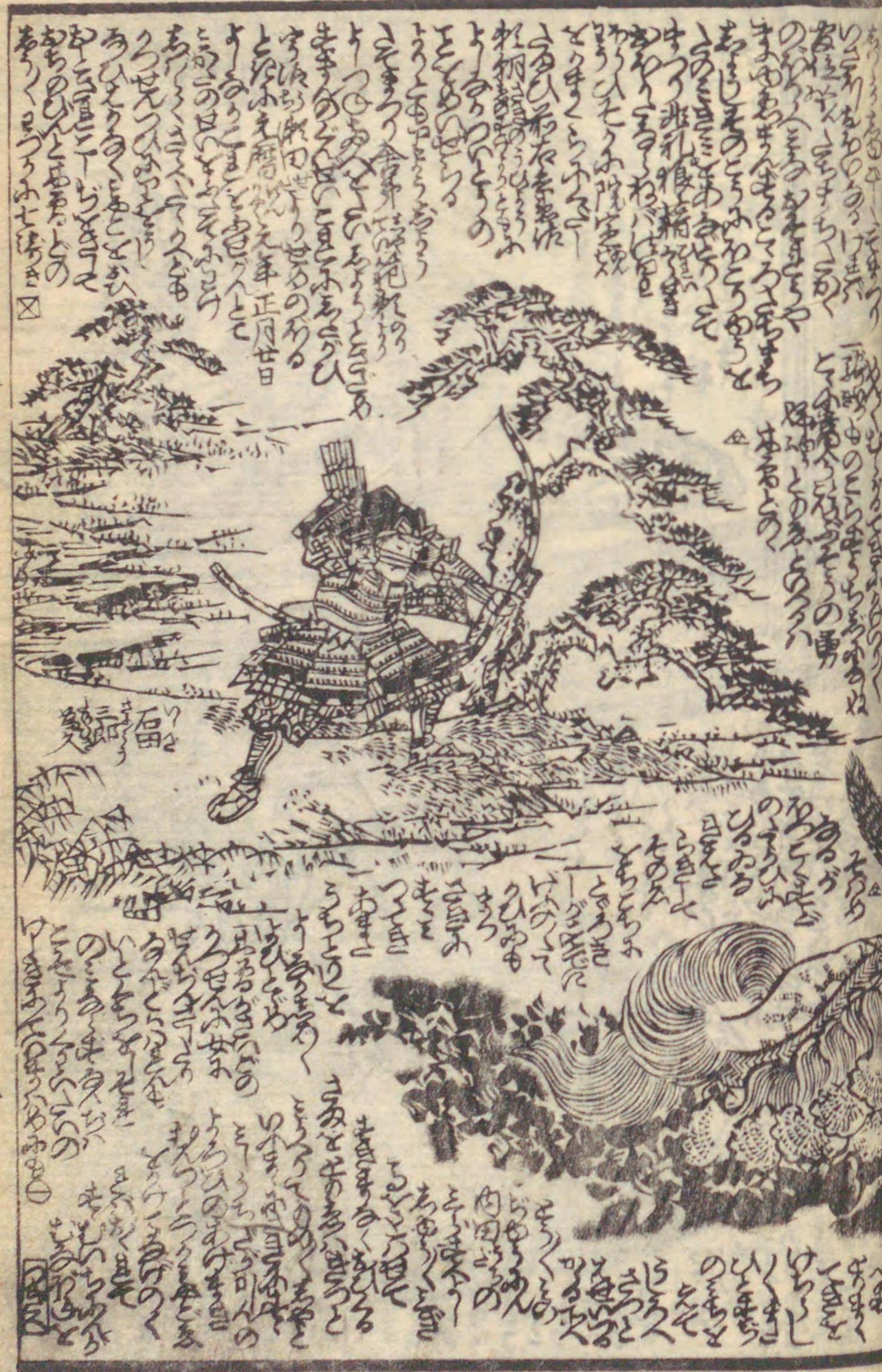
朝日右
刀野兼杖照時嫡子
全太郎時夏

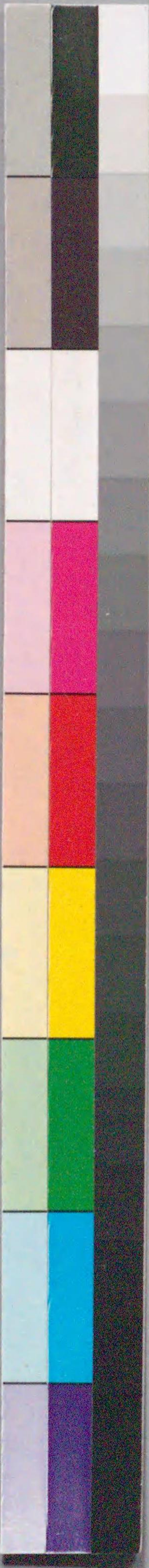
田鶴
美乃女

時夏の
若黨
子井平
後
綿人
藏
光
号と仲















此の茶刀は、
 下三の画
 洋三
 見
 衣食
 平あはる
 せ八あま
 せ八あま
 せ八あま

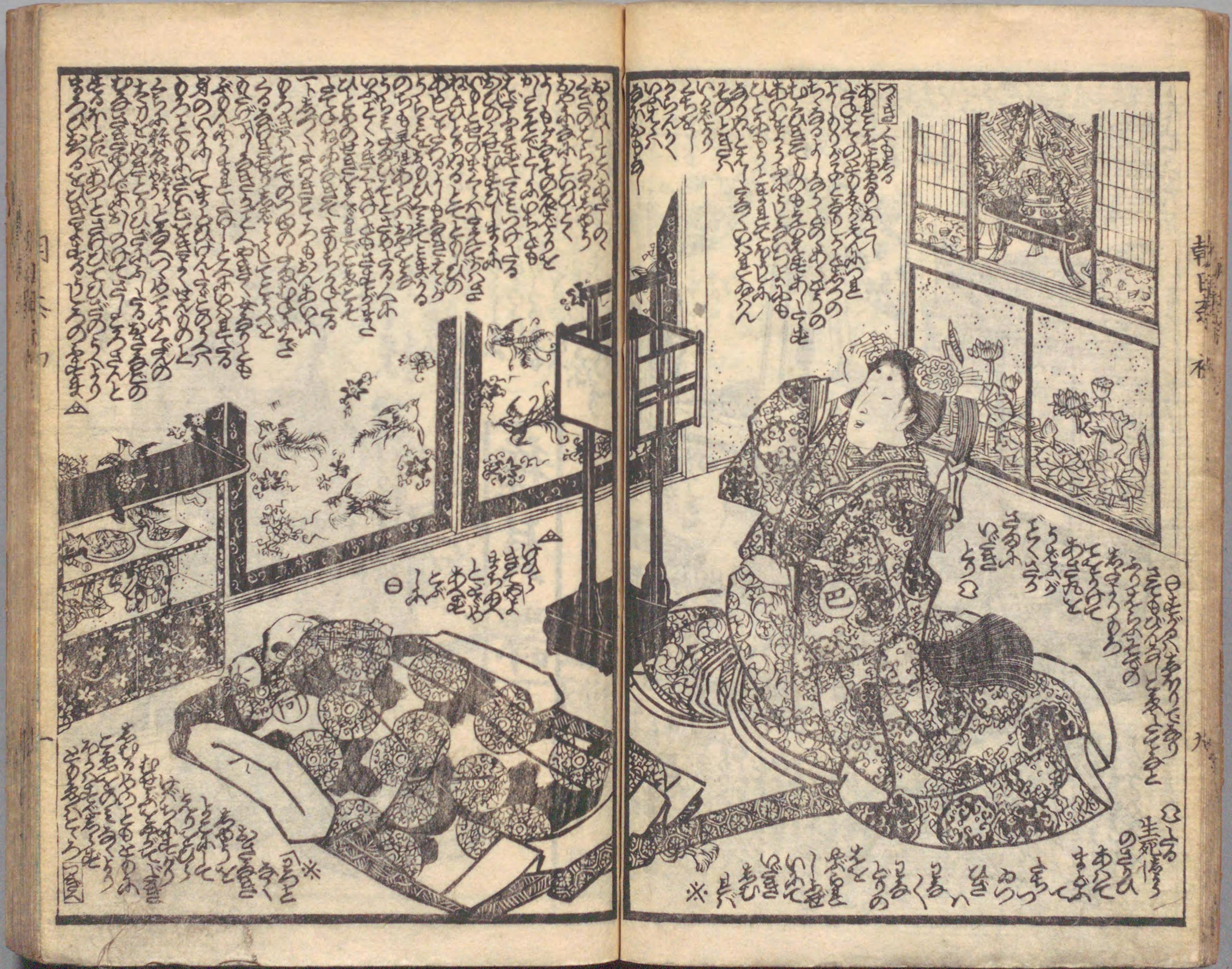
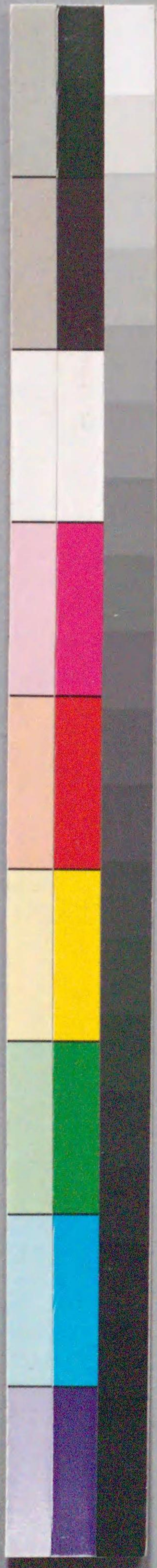
乙
 此の茶刀は、
 下三の画
 洋三
 見
 衣食
 平あはる
 せ八あま
 せ八あま
 せ八あま



此の茶刀は、
 下三の画
 洋三
 見
 衣食
 平あはる
 せ八あま
 せ八あま
 せ八あま

目
 此の茶刀は、
 下三の画
 洋三
 見
 衣食
 平あはる
 せ八あま
 せ八あま
 せ八あま





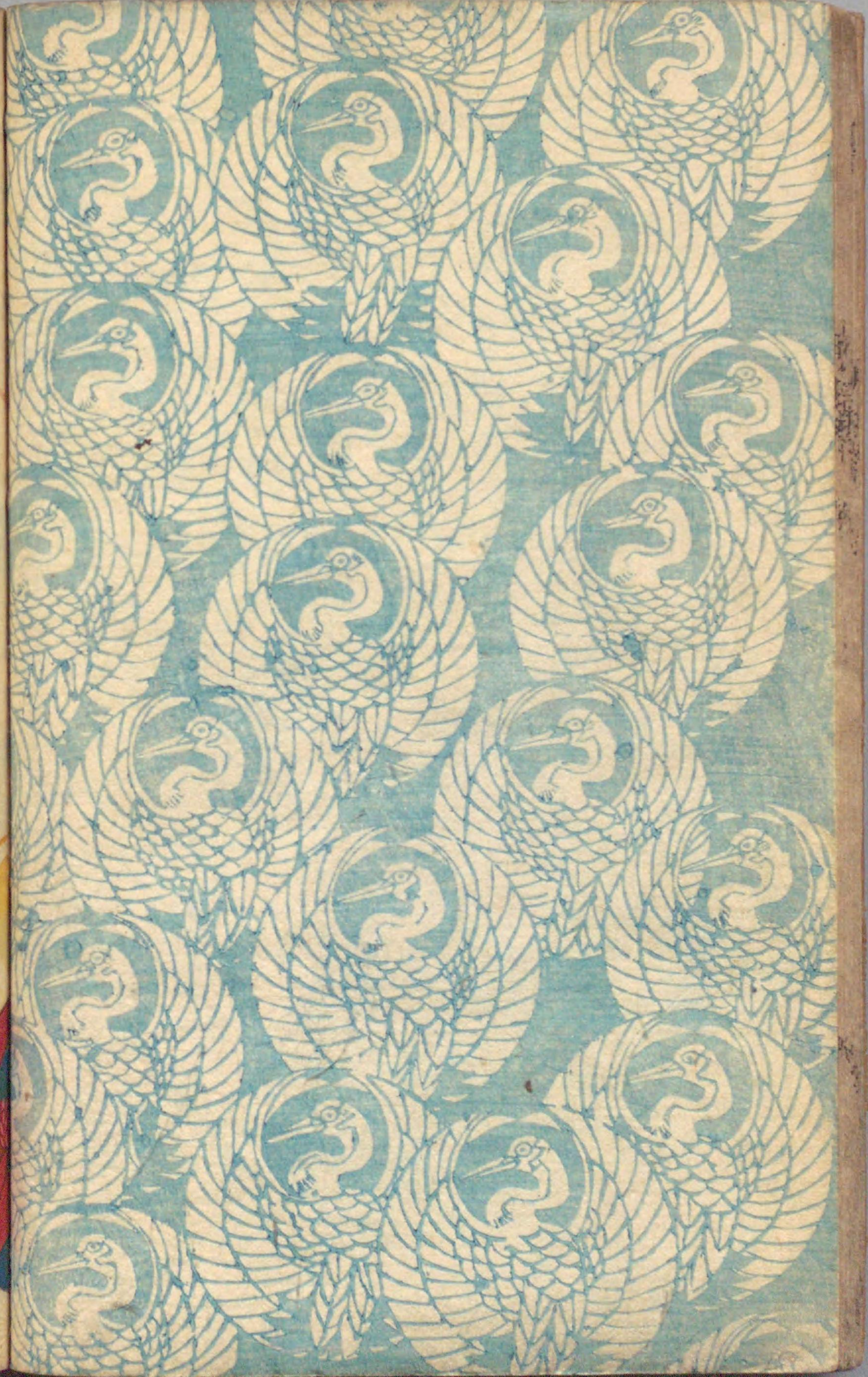
一雄齋國揮画

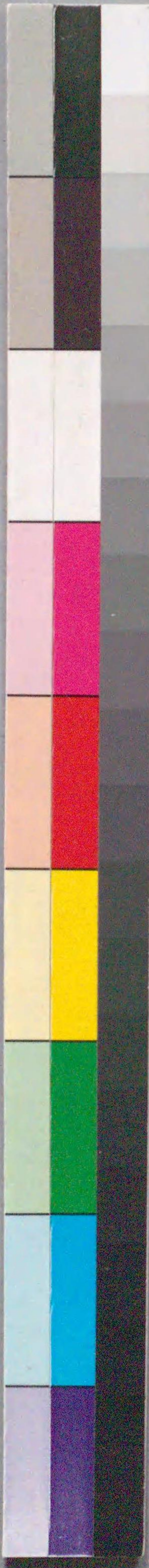


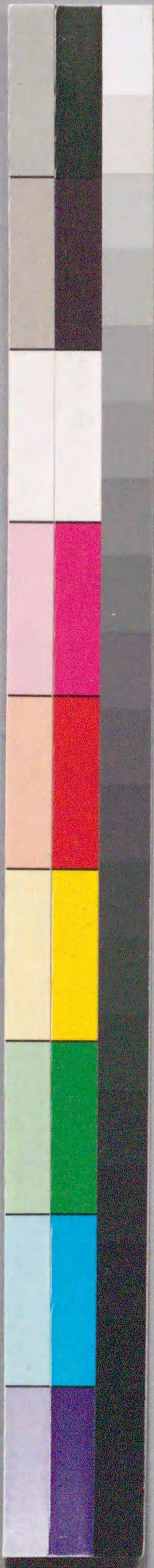
柳下亭
鳴呼
鐘員譯

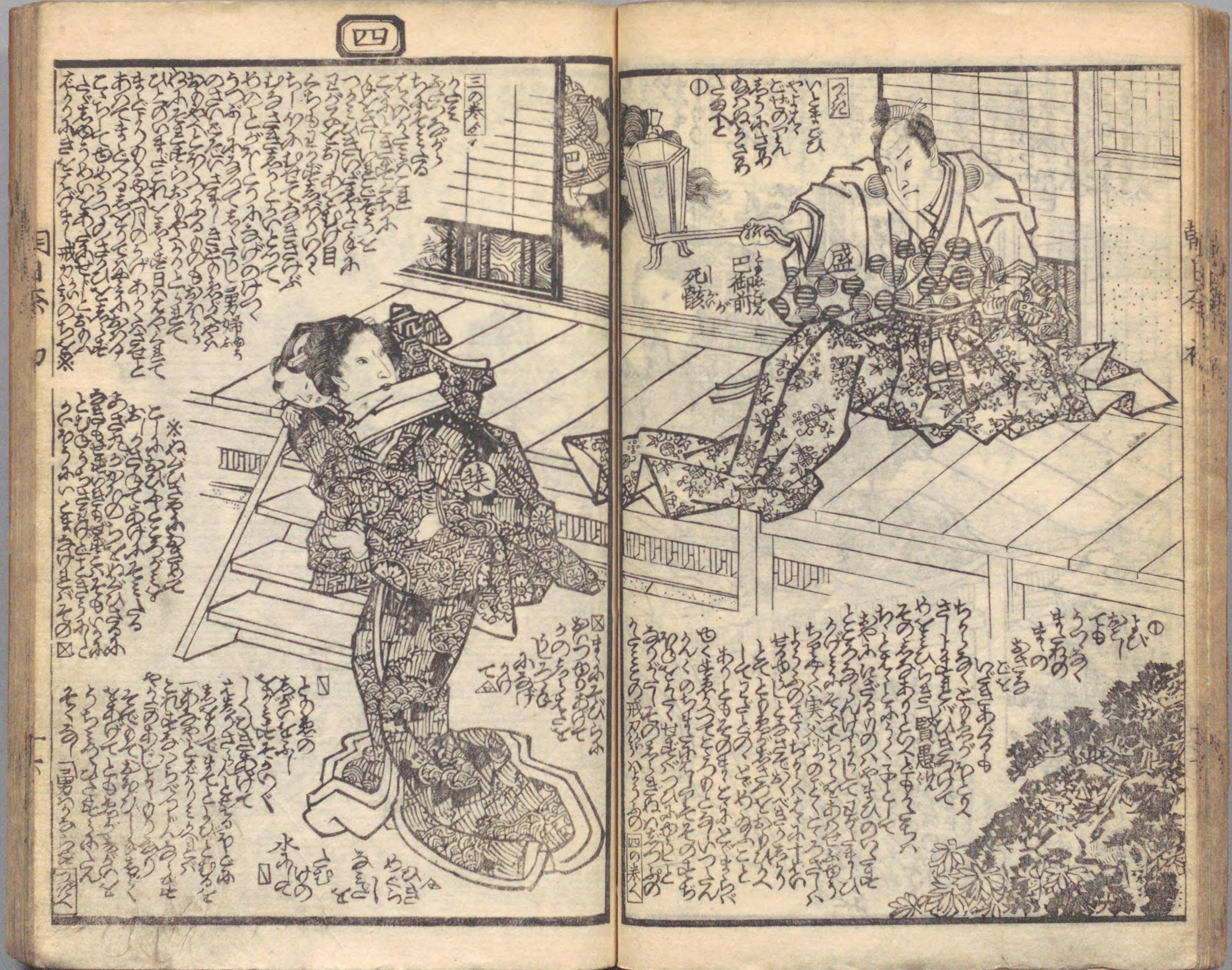
外題曲直成丸

初編下











朝比奈

十一





Handwritten text in the upper right corner of the left page, including the name 和良 (Wara) and other characters.

Handwritten text in the lower right corner of the left page, continuing the narrative or providing commentary.



Handwritten text in the upper right corner of the right page, including the name 朝日奈 (Asahi Na).

Handwritten text in the lower right corner of the right page, continuing the narrative or providing commentary.



四山

七



朝比奈







元禄年間はろくねんかんの俳優はいゆう中村舞鶴なかつむらた傳ついで元祖もとすけの朝日奈あさひな扮はなする事ことが名譽めいよを其頃そのとき都鄙とひ小評判せうへいはん高く晋子しんし其角そのかくももあひのあひのの楽がくやふりりふりりあつさあつさふとふと讚たのしみ美うつくしく送りおくりとと杖つゑ彼かが定紋じやうもん舞鶴まゐづよりより小據せうぢよてて小林こばやしが衣え袿き舞鶴まゐづの丸まるとと模様もやうおせせとと酒さけ後ご世よも其業そのわざの高たかきと追慕おひまてて此役このやく小打せうぢ扮はな者もののの鶴つるの丸まるのの母はは東とうと必かならず善よ者也もの多おほ小今こいまでであてあててて小林こばやしが家いへ致いたうと思おもひ許ゆる江湖こゝろ小見せみ馴なるる既すで小本せうほん傳ついで廻まわ嶋じま記きのの美うつく秀しゆが妻つま室むろの名なと友とも鶴つると号なづけけるるも舞鶴まゐづが紋もんのの因よりり斯す虚きよをを実ま摸もと迄いた称なづ美うつくるる其その藝ぎの功こう英えい勇ゆうの名なのの四よ海うみ小鳴な朝日奈あさひなのの各人おのづかのの名なのの傳ついで九良くら之の歌うた舞ま妓ぎ中なかのの豪傑ごうけつととああらんらん杯さかとと序おをを終はるる日ひも朝日奈あさひなのの樂屋がくやへへ小等せうとうとと案あん卓たのの傍わふふ汗あせとと拭ぬぐぐ水みづ無月むげつの中なか旬じゆんわり

嘉永三年庚戌歲晚夏成稿
同 四年辛亥歲孟陬發兌

柳下亭種員誌





蒲殿の家臣
當麻太郎
武弘

進呈 御筆御書

蒲殿の重宝
如羅丸の短刀
御父左曲所
受朝々臣の
遺物也



頼朝卿の舎弟
範頼朝臣
世人蒲殿と
称す

蒲殿の忠臣
江籠口藏人廣通





Handwritten text in vertical columns at the top of the left page, likely a preface or introductory text.



Handwritten text in vertical columns at the bottom of the left page, continuing the narrative or commentary.

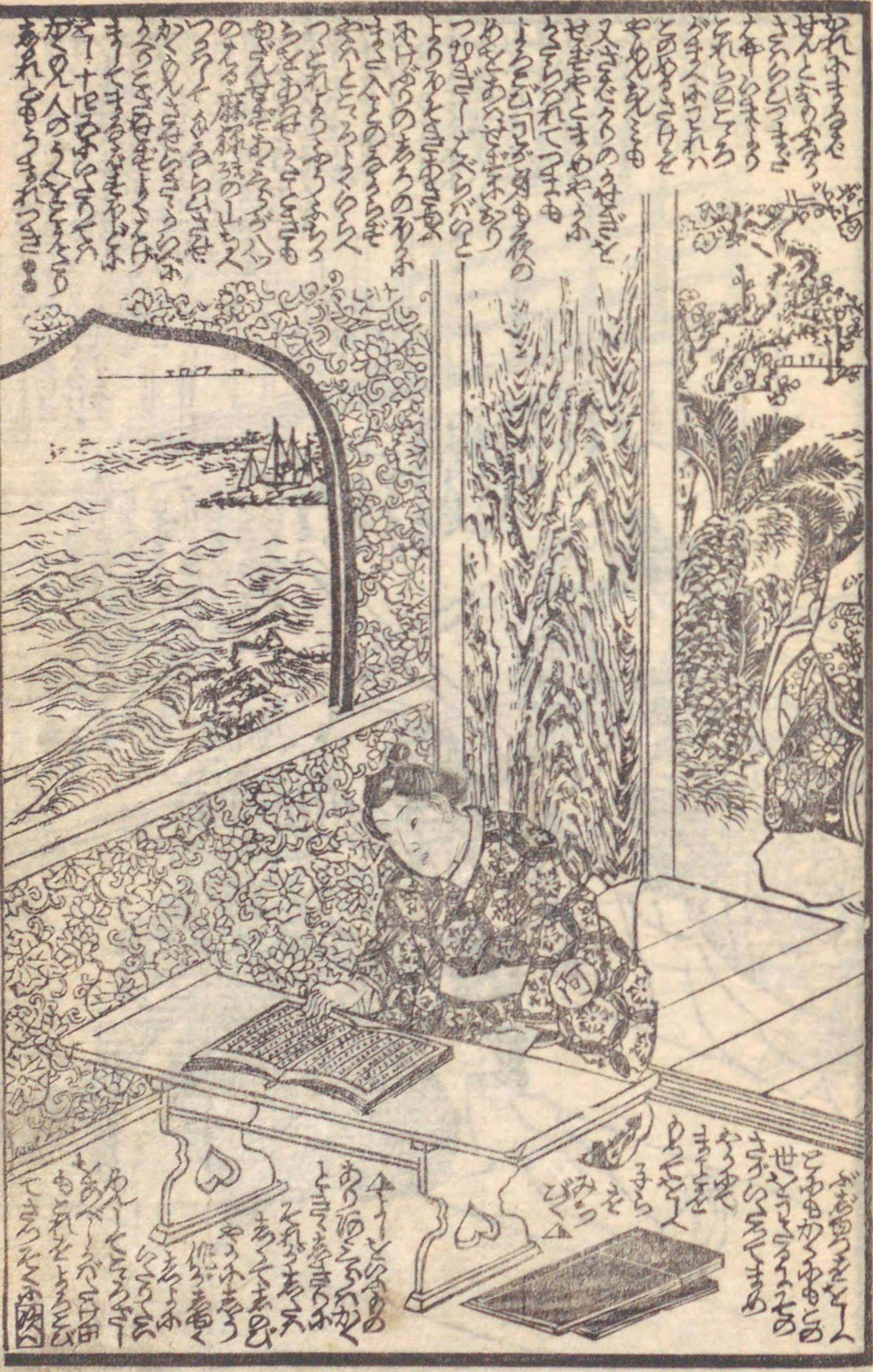
Handwritten text in vertical columns at the top of the right page, continuing the narrative or commentary.

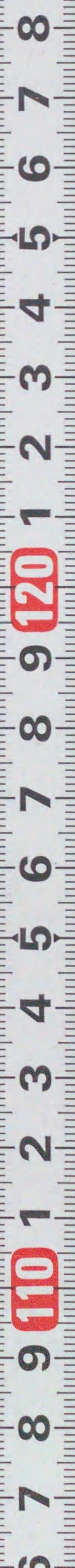
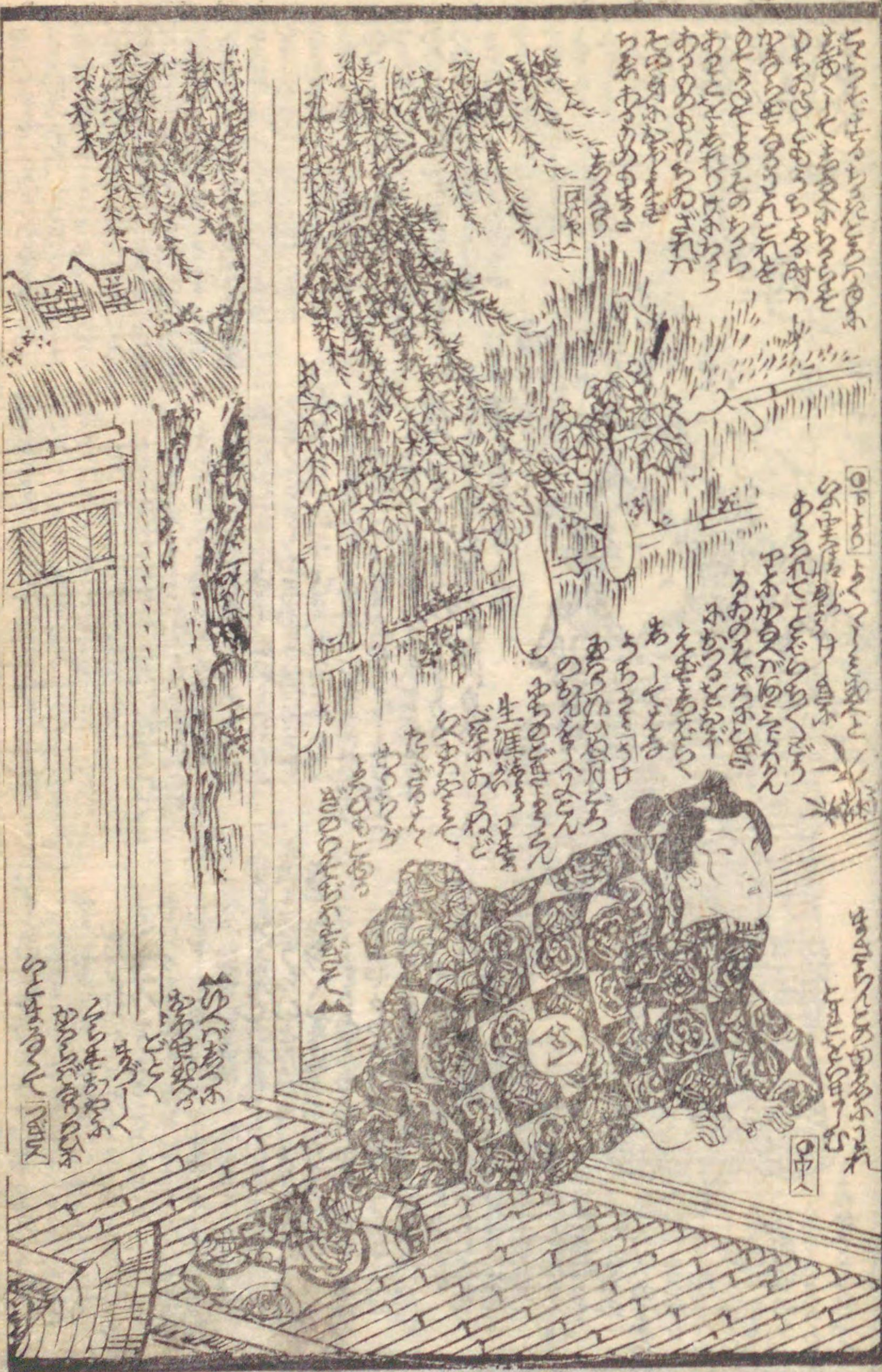


Handwritten text in vertical columns at the bottom of the right page, continuing the narrative or commentary.









麻祿
山寺
遥子
えの



御免痴積湯 せんきつとう
信州上田東山堂製

種員作國輝画

清書 金川

喜心元
おのちい
をのちい
一袋 代早箱

御免痴積湯 せんきつとう
信州上田東山堂製

法系 白芙蓉
おのちい 一包 三十六文
日蔭 曙の富士
化粧 日 三十六文

吐く流
ねらり心
せりり香
一包 古四文

中橋南傳馬町二丁目
津五や吉藏



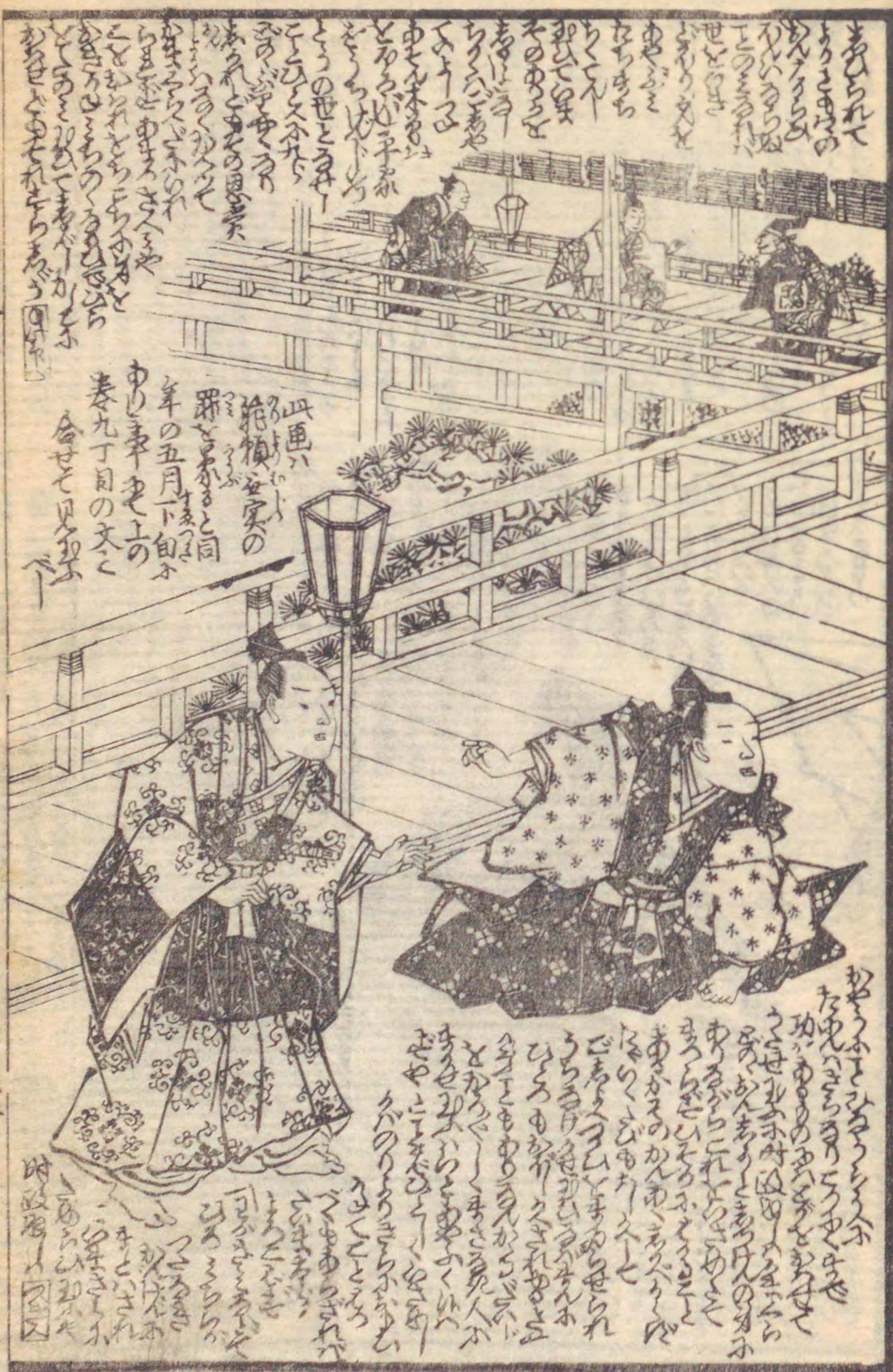


志満也
 奈員
 物比
 種負許
 玉輝也

下
 二編
 志

紅英堂梓







大天
因幡
其文の主人は元元

大天
因幡
廣元
元元



絶類の老臣
大夫属重能

絶類の老臣
大夫属重能

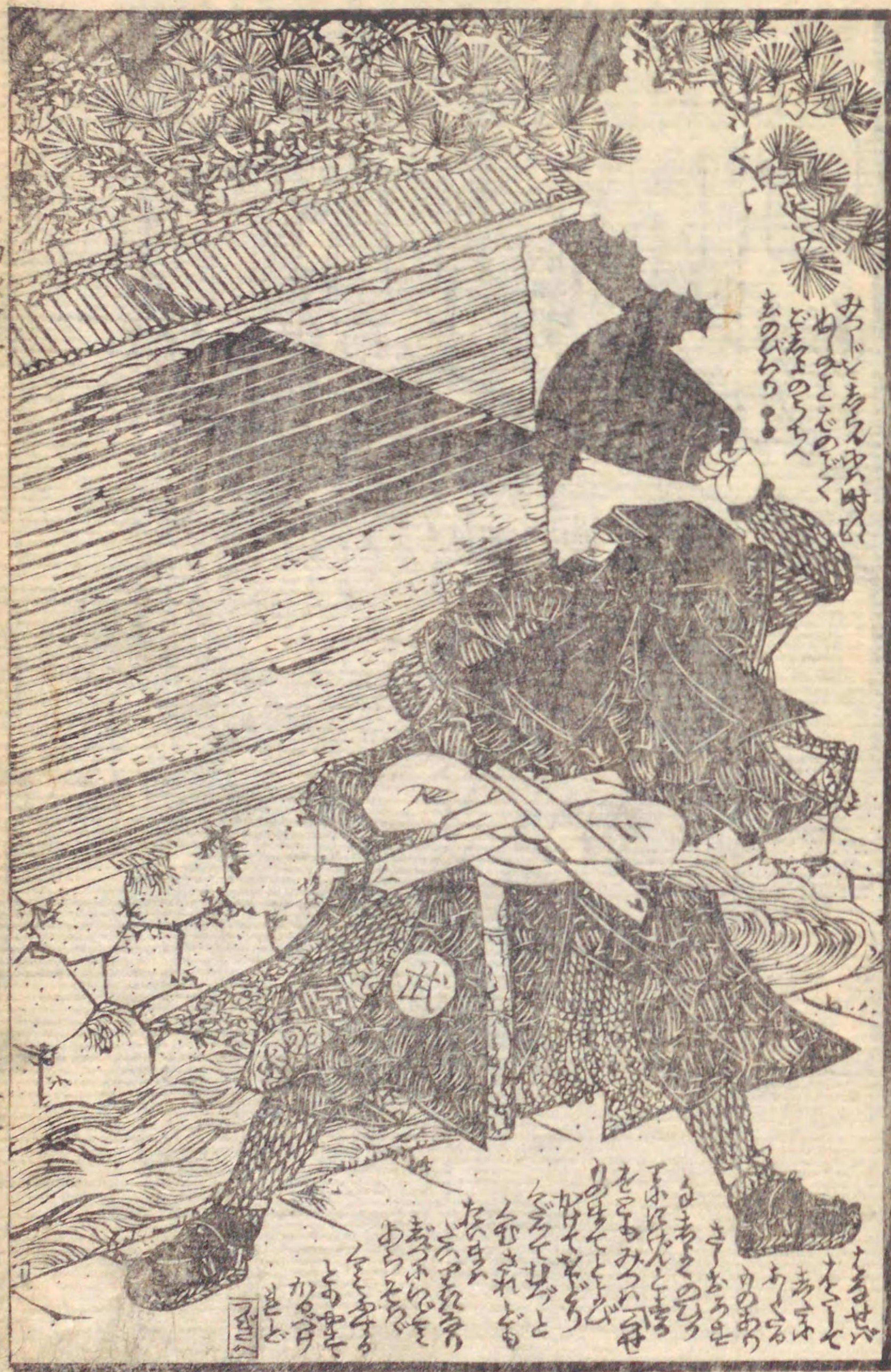
絶類の老臣
大夫属重能

鳥羽

鳥羽







かつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは

あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは



湯
湯
湯
湯

あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは

あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは
あつとるるは





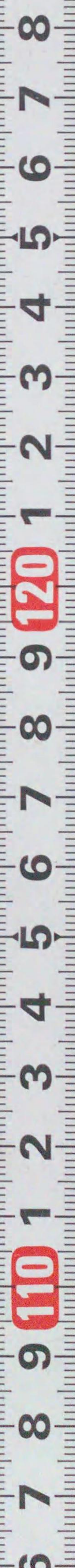
三日月
 結城七郎朝光
 海野太郎幸氏



江戸小四郎美時
 三日月







十町
 浦殿が
 濱の館
 兵火に焼亡る



浦殿が
 濱の館
 兵火に焼亡る

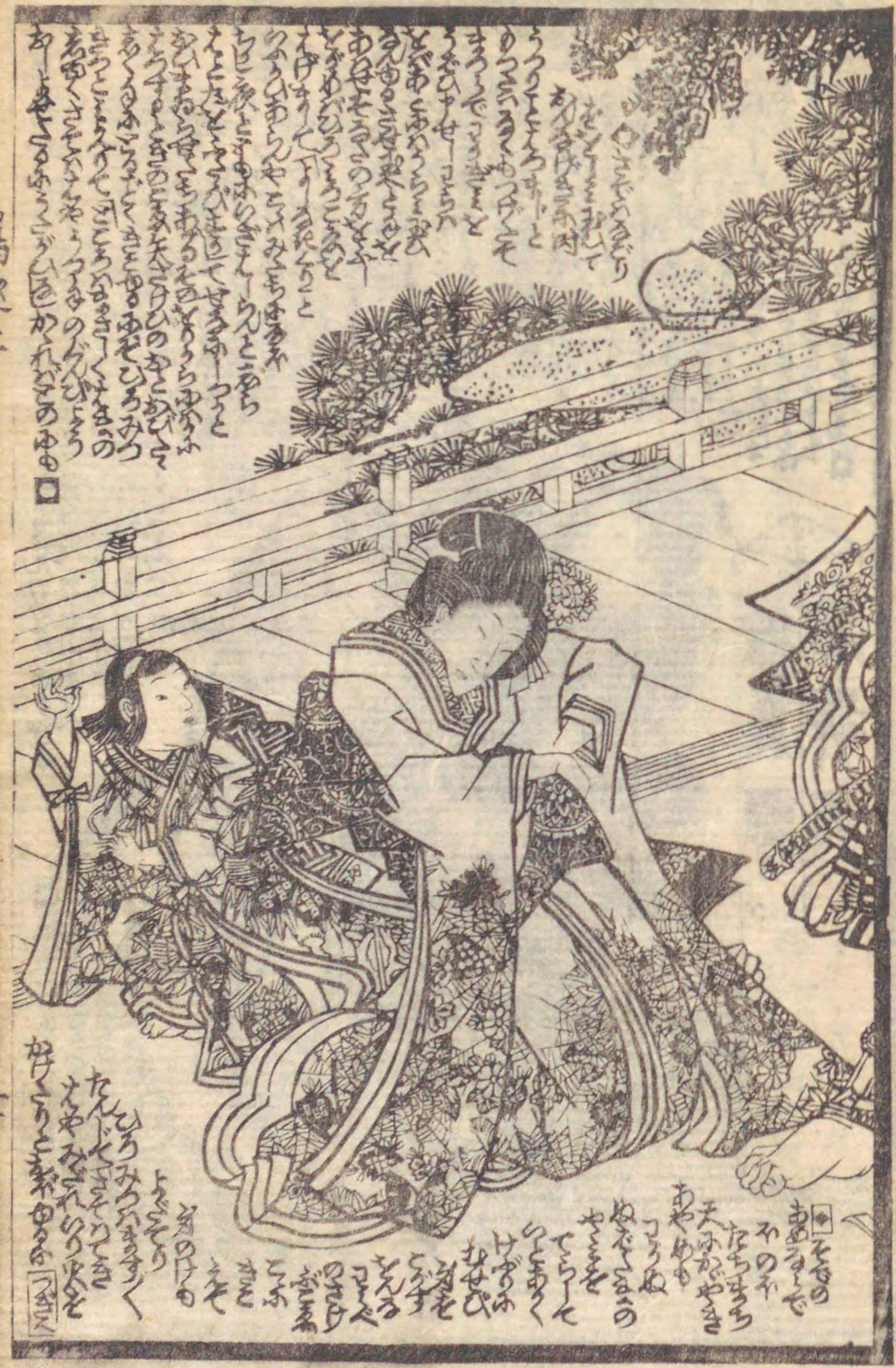


のり
 白丸
 白丸

浦殿が
 濱の館
 兵火に焼亡る

浦殿が
 濱の館
 兵火に焼亡る





Handwritten Japanese text in the upper right corner of the left page, including the name 'Mitsukuni'.

Handwritten Japanese text in the lower left corner of the left page, including the name 'Mitsukuni'.

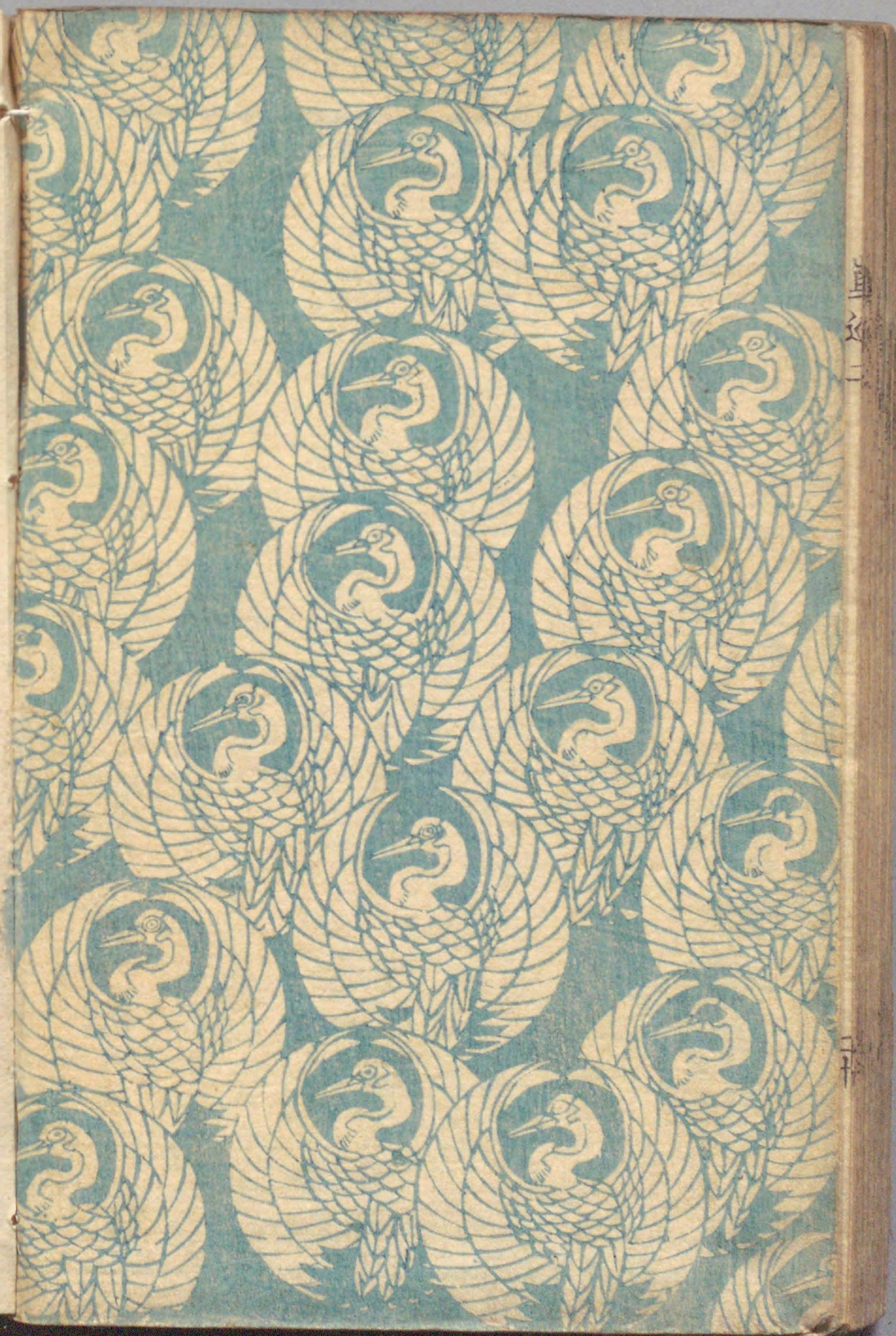


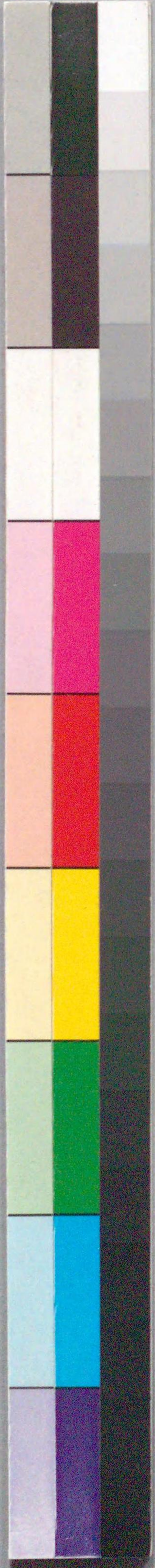
Handwritten Japanese text in the upper right corner of the right page, including the name 'Mitsukuni'.

Handwritten Japanese text in the lower right corner of the right page, including the name 'Mitsukuni'.



208
3
733





国立国会図書館 島廻浪間朝比奈 7編28巻 208-733

ガラス使用